

秋風も一段と肌寒くなってきました。あき地の草むらや、庭の片隅で鳴くコオロギの音が聞こえます。

コロコロリーリーリーと声量豊かに華麗^{がれい}に鳴くのはエンマコオロギです。富山で見られるコオロギの中で一番大きく、海岸ベリから山地まで広く生息しています。科学文化センターのある城南公園にもたいへん多く、館内に入りこんできたり、夜になると石の下や植えこみの根元から公園内にたくさん出てきて足のふみ場もないほどです。昼間はスズメやセグロセキレイが植えこみに頭をつっこんでエンマコオロギをとらえています。まるまると太っていて、良いエサとなるのでしょうか。

エンマコオロギの成虫は8月にはもう姿を見せますが、やはり多く出てくるのは9月に入ってからです。成虫はけっこう長生きし、1~2ヶ月は生きるようです。その間に交尾をし、メスは長い産卵管を土中につきさして卵を産みますが、1頭のメスで100個ばかり産むそうです。コロコロリーリーリーという鳴き声は、「本鳴き」と呼ばれ一番よく聞かれる鳴き方ですが、飼育して観察していると、オスどうしがけんかする時のキッキッキといった鳴き方の「けんか鳴き」、またメスを交尾にさそう時のゆるやかな鳴き方の「さそい鳴き」が聞かれます。

海岸ベリには、エンマコオロギにたいへん良く似たエゾエンマコオロギがいます。頭が真っ黒なのでエンマコオロギと見わけがつかず。鳴き声はリーリーリーといった感じの鳴き方で、エンマコオロギほど良い声ではありません。またエンマコオロギほど動きも活発ではなく逃げる時もすぐに物かげにもぐりこんでしまいます。

その他、リィリィリィリィと続けて鳴くツツレサセコオロギ、リ・リ・リ・リと4〜5声切って鳴くハラオカメコオロギ、リッ・リッ・リッと鋭く切って鳴くミツカドコオロギが平地の草むらで良く聞かれるものです。エンマコオロギやツツレサセコオロギの鳴き声はすぐに聞き分けられますが、ハラオカメコオロギとミツカドコオロギの鳴き声はなれないと区別がむずかしいようです。

秋の夜長、飼育されたスズムシの声だけでなく、自然の虫の声にも耳をかたむけてはいかがでしょうか。



エンマコオロギ



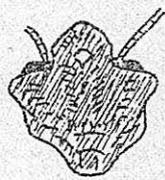
エゾエンマコオロギ



ツツレサセコオロギ



ハラオカメコオロギ



ミツカドコオロギ

— 本文に出てくるコオロギ5種の顔 —



富山市科学文化センター

富山市西中野町3丁目1番19号 (〒930-11)

電話 富山(0764) 91-2123(代表)

昭和58年10月1日発行